

《担当者名》 池森 康裕 sr528@hoku-iryo-u.ac.jp 高橋 久江(非)

【概要】

利用者の尊厳保持と自立(律)した生活を支える観点から、必要な知識と技術を学ぶ。特に入浴・清潔・排泄の意義を理解し、安全で安楽な生活支援技術を学ぶ。

【学修目標】

- 1.入浴(清潔)の意義を理解し、利用者の状況に応じた自立支援ができる。
- 2.排泄の意義を理解し、利用者の状況に応じた自立支援ができる。
- 3.福祉用具の正しい活用方法を理解し、利用者のプライバシーに配慮した援助ができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 自立に向けた入浴・清潔保持の介護	この科目で学ぶこと 科目の位置づけ 入浴・清潔保持の意義と目的を理解し、説明できる。 (身体的、精神的、社会・文化的意義と目的)	池森
2	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 の視点	入浴・清潔保持の介護の基本となる知識と技術を理解し、説明できる。	池森
3	対象者の状態に応じた入浴・清潔保持の介護	一般浴、シャワー浴、特殊浴槽(機械浴)の介護を理解し、説明できる。	池森
4	対象者の状態に応じた入浴・清潔保持の介護	部分浴(手浴)の介護を理解し、説明・実施できる。	池森
5	対象者の状態に応じた入浴・清潔保持の介護	部分浴(足浴)の介護を理解し、説明・実施できる。	池森
6	対象者の状態に応じた入浴・清潔保持の介護	部分浴(洗髪)の介護を理解し、説明・実施できる。	池森
7	対象者の状態に応じた入浴・清潔保持の介護	部分清拭(手・足)の介護を理解し、説明・実施できる。	池森
8	対象者の状態に応じた入浴介護	一般浴、シャワー浴、特殊浴槽(機械浴)、リフト浴の介護を理解し、説明できる。	池森
9	対象者の状態に応じた入浴介護	一般浴、シャワー浴、特殊浴槽(機械浴)、リフト浴の介護を理解し、説明・実施できる。	池森
10	対象者の状態に応じた入浴介護	一般浴、シャワー浴、特殊浴槽(機械浴)、リフト浴の介護を理解し、説明・実施できる。	池森
11	対象者の状態に応じた入浴介護	一般浴、シャワー浴、特殊浴槽(機械浴)、リフト浴の介護を理解し、説明・実施できる。	池森
12	対象者の状態に応じた入浴介護	一般浴、シャワー浴、特殊浴槽(機械浴)、リフト浴の介護を理解し、説明・実施できる。	池森
13	対象者に応じた介護 右片麻痺の高齢者介護	感覚・運動・高次脳機能が低下している人の入浴介護を理解し、説明・実施できる。(事例A)	池森
14	対象者に応じた介護 左片麻痺の高齢者介護	感覚・運動・認知・知的機能が低下している人の入浴介護を理解し、説明・実施できる。(事例B)	池森
15	まとめ	安全な入浴介護と他職種連携を理解し、説明できる(事故・感染対応含む)。	池森
16	自立に向けた排泄の介護	排泄の意義と目的を理解し、説明できる。(身体的、精神的、社会・文化的意義と目的)	池森

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
17	排泄介護の基本となる知識と技術	排泄のメカニズムを理解し、説明できる。	池森
18	自立に向けた排泄介護の実際	自立度別介助の視点について理解し、説明できる。 (トイレ・ポータブルトイレ介助)	池森
19	自立に向けた排泄介助の実際	自立度別介助の視点について理解し、説明できる。 (おむつの介助)	池森
20	自立に向けた排泄介助の実際	自立度別介助の視点について理解し、説明できる。 (尿器・差し込み便器)	池森
21	排泄障害の知識と技術	頻尿、尿失禁について理解し、説明できる。	池森
22	排泄障害の知識と技術	排便障害について理解し、説明できる。 (便秘、下痢、便失禁)	池森
23	排泄障害の知識と技術	自己導尿カテーテル、浣腸の取り扱いについて理解し、説明できる。	高橋
24	排泄障害の知識と技術	ストーマ、パウチの取り扱いについて理解し、説明できる。	高橋
25	対象者に応じた介護 右片麻痺の高齢者介護	感覚・運動・高次脳機能が低下している人の排泄介護を理解し、説明・実施できる。(事例A)	池森
26	対象者に応じた介護 左片麻痺の高齢者介護	感覚・運動・認知・知的機能が低下している人の排泄介護を理解し、説明・実施できる。(事例B)	池森
27	対象者に応じた介護 右片麻痺の高齢者介護	感覚・運動・高次脳機能が低下している人の排泄介護を理解し、説明・実施できる。(事例A)	池森
28	対象者に応じた介護 左片麻痺の高齢者介護	感覚・運動・認知・知的機能が低下している人の排泄介護を理解し、説明・実施できる。(事例B)	池森
29	他職種の役割と協働	排泄ケアにおける他職種連携を理解し、説明できる。 (事故・感染対応含む)	池森
30	まとめ	自立に向けた入浴・清潔、排泄ケアの要点を整理し、説明できる。	池森

#### 【授業実施形態】

##### 面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

#### 【評価方法】

定期試験45%、実技試験45%、レポート10%

#### 【教科書】

介護福祉士養成講座編集委員会編集：新・介護福祉士養成講座7 『生活支援技術 第2版』 中央法規 2022

#### 【参考書】

介護福祉士養成講座編集委員会編集：最新・介護福祉士養成講座6 『生活支援技術 第2版』 中央法規 2022

介護福祉士養成講座編集委員会編集：最新・介護福祉士養成講座14 『こころとからだのしくみ 第2版』 中央法規 2022

#### 【備考】

この科目は、介護福祉士国家試験受験資格取得のための「生活支援技術」に該当する。

#### 【学修の準備】

1. 演習では動きやすい服装と上靴を準備すること。
2. 腕時計、イヤリングなどのアクセサリは外すこと。
3. スカートや外靴では演習を受けられないので注意すること。
4. 講義・演習で渡した資料はファイルに保管して、毎回持参すること。
5. 演習を行う上では、次回の内容を事前にシラバスで確認し教科書を一読しておくこと。（予習）
6. 排泄障がいを伴う生活を理解するため、体験を通して課題レポート作成の準備すること。（復習）

予習：2時間 復習：2時間

**【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】**

DP2：福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP1.人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。

DP3：社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

DP4.保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

**【留意事項】**

演習時は、学生同士のグループで進めるので、遅刻・欠席は他の学生へ影響を及ぼすので次の点に注意する。

- 1.遅刻、早退、欠席は極力避けること。
- 2.15分以上の遅刻・早退は欠席扱いとする。
- 3.遅刻・早退3回で1回の欠席としてカウントするので注意すること。

**【実務経験】**

池森康裕（介護福祉士）、高橋久江（看護師）

**【実務経験を活かした教育内容】**

臨床および地域での医療・介護分野の専門職として、実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。